



学校外からのアプローチによるいじめ解消の 仕組みづくりに向けた手法の開発・実証事業

【大阪府 八尾市】

八尾市こども総合支援センター



八尾市の概要

- ▶ 人口 259,461人（令和6年10月末現在）
- ▶ 面積 41.72平方キロメートル
- ▶ 児童・生徒数 小学生 12,093人 中学生 5,922人
- ▶ いじめの認知件数

令和5年度	2,274件
令和4年度	2,749件
令和3年度	2,667件

首長部局における組織体制

令和2年4月

市長直轄組織 「いじめから子どもを守る課」を設置

※専門職員（弁護士2名・心理士1名・教職OB1名）及び事務職3名の7人体制

令和4年10月

こども総合支援センター「ほっぷ」開設

※こども若者部こども総合支援課との兼務

令和6年4月

こども家庭センター設置

※こども家庭センター内のこども・いじめ何でも相談課のいじめ班として実施
心理士を3名に増員

初期の取り組みと課題

- いじめ相談専用ダイヤルの設置（令和２年度～）
- やおっこ手紙相談の実施（令和３年度～）

※令和２年度	こども ５人	保護者 ５３名	合計	５８名
令和３年度	こども ２１人	保護者 ２６名	合計	４７名
令和４年度	こども ３６人	保護者 ４２名	合計	７８名

課題①

こどもからの
相談が少ない

課題②

相談窓口や
いじめ相談専用ダイヤル
の認知度の低さ

課題③

相談内容により
福祉的支援の必要性

課題への対策

課題①

こどもからの
相談が少ない



いじめ報告相談
アプリの導入

課題②

相談窓口や
いじめ相談専用ダイヤル
の認知度の低さ



いじめ防止啓発強化月間を設定
出前講座やピンクシャツ運動に
よる地域への啓発活動の実施

課題③

相談内容により
福祉的支援の必要性



機構改革による対応

課題 1 への対策

いじめ報告相談アプリ『STANDBY』導入

- 全国で初めて市長部局にいじめ報告相談アプリ「STANDBY」を導入

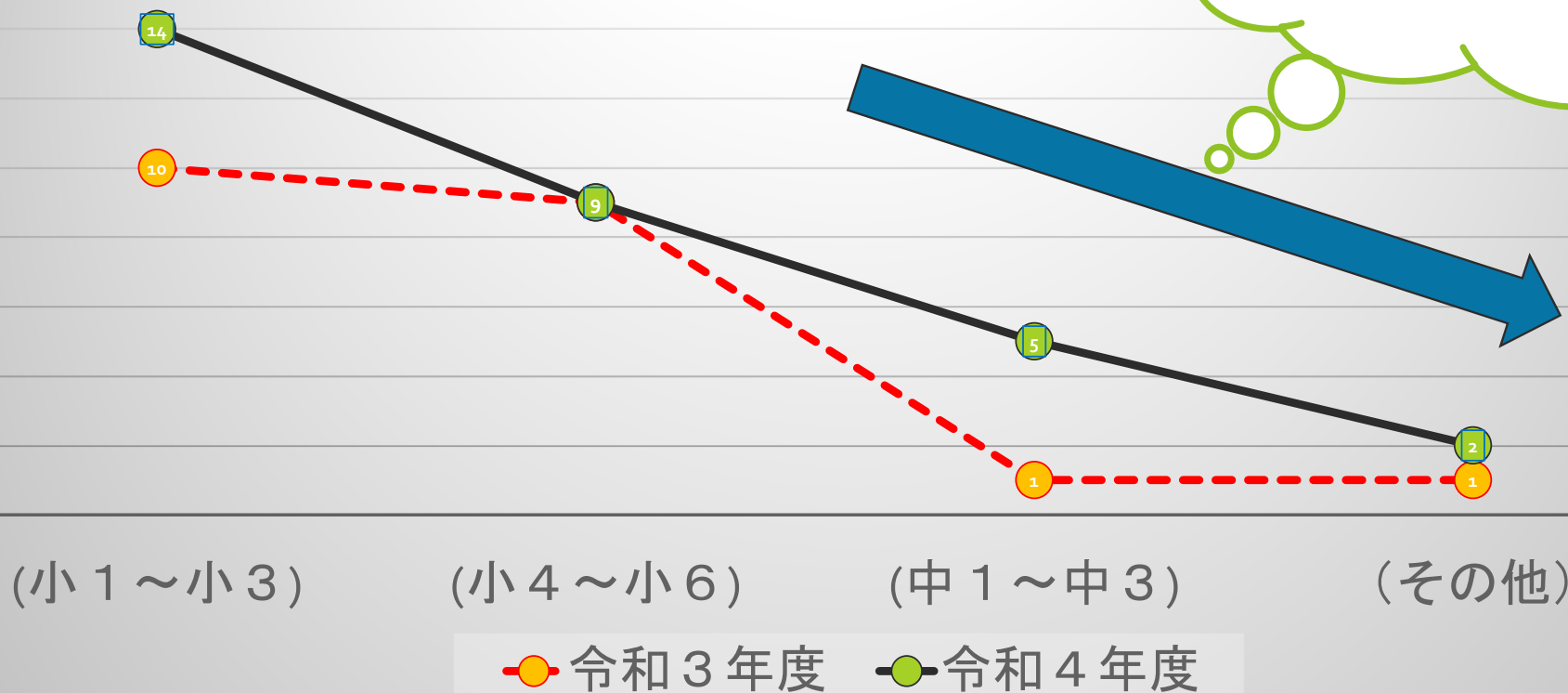


課題 1 への対策

アプリ導入のきっかけ

手紙相談数（学年別）

学年が上がるごとに
手紙相談件数が減少



課題 1 への対策

「いじめ報告相談アプリ」の相談実績

➤ 令和5年

八尾市立の小学校8校 中学校5校の13校に先行導入

相談人数：57人（のべ159件）

➤ 令和6年

八尾市立の全小中学校に導入

（小学校27校 中学校14校 義務教育学校1校に導入）

相談人数：159人（のべ275件）←7月末時点

課題 1 への対策

こどもからの声を拾うことで 分かってきたこと

- 友人関係、家族関係、学習面、
虐待が疑われる相談など、相談内容が多岐にわたっている



- こども総合支援センター（こども家庭センター）全体で
対応する必要性
- 福祉部局や教育委員会との連携の必要性

課題 2 への対策

いじめ防止啓発強化月間の設定



- 5月・10月を「いじめ防止啓発強化月間」に設定
- 10月に啓発グッズ（クリアファイル・ポケットティッシュ）を作成し、全児童生徒に配布

課題 2 への対策

出前講座やピンクシャツ運動による 啓発活動の実施

- 地域の人たちのいじめに対する理解を深めるため、
出前講座の実施
- いじめ反対の意思表示であるピンクシャツ運動の展開



- 地域やP T A・企業など様々ところでピンクシャツ運動が行われる



課題 2 への対策



市議会



団体



地域



企業

課題 2 への対策

いじめ防止啓発強化月間後の 相談件数

- 令和 5 年 4 月～ 9 月 3 0 件
- 令和 5 年 1 0 月～ 1 2 月 1 5 7 件
- 令和 4 年 1 0 月～ 1 2 月 6 1 件



前年度比
2.6 倍増

課題 3 への対策

福祉的支援の必要性（八尾市における事例①-1）

- いじめ報告相談アプリに、小学生女児（A）より「クラスの男の子（B）から、からかわれる」という相談
- 相談員よりAに助言 ⇒ 「がんばってみます」
- 後日、Aより再度相談「いろいろあって学校に行きたくない」「お母さんに学校に行きたくないと言っても、『勉強しいや』と言われる」
- Aに同意をとり、教育委員会、学校と情報共有、対応について協議

課題 3 への対策

福祉的支援の必要性（八尾市における事例①-2）

- 担任からAへ再度聞き取り
気持ちを寄り添いながら、Bへ指導
A 「ありがとうございました！」
- 学校からAの母へ、当課への相談を提案



- Aの気持ちを直接聞き取れたことで、Aの気持ち寄り添いながら、教育委員会、学校と連携し、Aの背景にある課題を整理しながら対応することができた

市長部局と教育委員会との連携



- ①管理職および担当者による定例会議
- ②いじめの問題に関する実態調査の全件共有
(個人情報保護した上で)
- ③やおっこミーティング
- ④こどもサミット～いじめ防止に一步ふみだそう～
- ⑤ピンクシャツ運動

①管理職および担当者による定例会議

- こども・いじめ何でも相談課から教育委員会につないだケースについて、その後の経過報告の共有
- 重大事態事象、または重大事態になる可能性がある事象について状況の共有
- 協同での企画立ち上げや、両課の取り組みについて共有

②いじめの問題に関する実態調査の全件共有

- 教育委員会が各学期末に実施している「いじめの問題に関する実態調査」で認知されたいじめ事案について、個人情報保護した上で、全件、両課で共有
- 教育委員会の「学校現場・実態のノウハウを基にした対応」とこども・いじめ何でも相談課の「法、心理職の専門家の知見を基にした対応」を組み合わせ、早期解消が図れるよう、対応方法等を確認

③やおっこミーティング



人権教育課、こども・いじめ
何でも相談課職員が、児童会・
生徒会の こどもたちと話し合
う

「いじめをなくすにはどうすれ
ばいいか」

「大人に求めることは？」等
こどもたちの声を直接聞く

④こどもサミット

～いじめ防止に一步ふみだそう～



小中学校の児童会・生徒会のこども達を
オンラインでつなぎ、いじめについて
意見交換を行う

関係機関の方が参観



⑤学校でのピンクシャツ運動



各小中学校で、ピンクのものを身につけて
「いじめ反対」の意思を表明するピンクシャツ運動

あいさつ運動の時に、ピンクTシャツ等を着たり
ピンクシャツ運動の説明動画を作成し、賛同を呼び
掛けたりしている



学校等

学校法人

府教委

市教委

教育センター

校内いじめ対策委員会

調査・保護・指導

学校

教職員

連携

総合教育会議

いじめ問題
対策連絡協議会

こどもの思い

こども総合支援センター

こども・いじめ
何でも相談課

教育OB

弁護士

心理士

こども
健康課

市長部局

つなげる支援室

福祉事務所

保健センター

市立病院

連携

相談(アプリ・手紙)

相談対応

福祉支援

フリースクール

NPO・団体

民間支援団体

こども

保護者

監護・養育

家庭

医療機関

児童相談所

府警生活安全課

支援機関

自治振興委員会 校区まちづくり協議会
青少年育成連絡協議会 民生委員児童委員協議会
PTA協議会 地区福祉委員長連絡協議会 など

八尾市民

法務局

法務少年支援センター

市長部局におけるいじめ解消のスタンス

- 事実調査や事実認定からは距離を取ることで、すべての相談者（関係児童生徒）への寄り添いと孤立防止を最優先とし、加害一被害の二者対立でとらえきれない（被害児童生徒の保護と、加害児童生徒への指導では治まらない事案）「いじめ」に対し、福祉的な観点から改善を図る。
(学校内で収まりきれない課題を関係機関と協力して解決する)

八尾市のアピールポイント（まとめ）

- 匿名によるアプリ相談や手紙相談によって、いじめ相談に限らずこどもの声を直接拾うことができる
- 教育委員会・学校と連携・協働しながらケース対応
- 市立学校に限定しない対応（私立学校や高等学校も対象）
- 地域を巻き込んだいじめ未然防止のための雰囲気づくり
- こども総合支援センター「ほっぷ」（こども家庭センター）で、いじめ相談を含めたすべての相談に対応
- 相談対応の初動としてインテーク班が窓口となり対応を検討し、より適切な支援機関につなげる
- 福祉的な課題を抱えたケースについては、こども・いじめ何でも相談課および福祉部局全体で連携して対応

ご清聴ありがとうございました

